

ている。

7) チャバネゴキブリ *Blattella germanica*

世界共通種として有名。播磨各地でもビルや飲食店にて多く見られる。

<採集例>

1♂ 1-VII-1963 姫路市南畝町 Col. 相坂耕作

1♀ 9. VI-1994 姫路市西延末 Col. 相坂耕作

8) モリチャバネゴキブリ *Blattella nipponica*

海岸近くの松林などには特に多いようである。

<採集例>

1ex. 29-IX-1967 龍野市竜野町 Col. 相坂耕作

1ex. 4-XI-1985 姫路市林田町 Col. 相坂耕作

1ex. 4-VI-1995 赤穂市坂越生島 Col. 大貝秀雄

9) サツマゴキブリ *Opisthopteria orientalis*

朽ち木の樹皮に潜んでいるらしいが、播磨地方では神崎郡でオガ屑内で見つかったことがある。

1♀ 20-V-1988 神崎郡神崎町 Vol. 森田真澄

10) オオゴキブリ *Panesthia angustipennis spadica*

近代昆虫分類学の祖、播磨出身の松村松年博士の弟子の素木得一が播磨産のオオゴキブリにより学名記載を行ったという。旧名はオオアブラムシ、ツノオホゴキブリといわれたそうである。

<採集例>

1♀ 12-VIII-1979 加西市坂本町 Col. 相坂耕作

1♀ 1-IX-1982 姫路市書写山 Col. 相坂耕作

多数 4-VI-1995 赤穂市坂越生島 Col. 相坂耕作

内職的に集めただけなのであまり標本としていないが、今後衛生害虫にも力を入れたいと思っている。

<参考文献>

日浦 勇 Nature Study. 21(3):2~4, 21(5):2~6, 21(10):2~4.

森田真澄 きべりはむし第16巻第2号 兵庫昆虫同好会(1988年)

朝比奈正二郎 日本産ゴキブリ類 (株)中山書店 (1991年)

(AISAKA KOUSAKU 姫路市大津区天満 960-19)

越冬前のウラギンシジミ

近藤 伸一

自宅(神戸市西区)のアラカシの生け垣で越冬に入る前のウラギンシジミの行動を観察することが出来た。晩秋のウラギンシジミは、一旦越冬に入っているように見えても、条件しだいでは越冬場所を選びかえるようである。以下は観察記録。

1998年11月2日

14:00 ウラギンシジミがアラカシの生け垣にまとわりように飛んでいるのを見つけた。

14:10 アラカシの葉裏に止まり静止した。

14:30 止まっていた葉から30cmほど離れ、やや茂みの奥まった葉に移動した。

15:00 触角を翅の間に挟み、前脚を折り曲げた越冬態勢になる。

11月4日

9:00 同じ態勢

17:00 同じ態勢

22:00 翅にマークするため、マジックインキで触れた瞬間に飛びたった。越冬態勢に入って2日間まったく動きはなく、気温も低かったため、この感受性は意外であった。

11月5日

9:00 飛びたった葉から1mほど離れた葉の裏に止まっているのを再度見つけた。翅にかすかにマジックインキの跡があり、同一個体である。この場所は外に面し、直接風が当たる越冬に不向きな場所とおもわれた。

11月6日~11月18日

機会ある度に観察したが、同じ場所、同じ態勢で、そのまま越冬に入ったものと思っていた。

11月20日 7:00

姿が見えなくなった。

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡 619-57)